

## 「ウィ・サーブ」 We Serve

〈われわれは奉仕する〉

ライオンズクラブ国際協会・国際会則に「本協会の「モットー」Motto〈座右の銘 又は・標語〉は We Serve (われわれは奉仕する) と記載されている。

モットーですから、ライオンズクラブが創設されたときと同時に設定されたように思われますが、1917年6月誕生してから37年経過した1954年7月に設定されました。

1919年第3回世界大会において「ライオニズムの力」と題するスピーチ (デンバー LC・L リッター) が行われ「Liberty Intelligence Our Nations Safety」のスローガンが採択され、ライオンズの紋章設定は (ライオン・マーク) 1920年3月と、ライオンズ創世記に設定されているのに比べ非常に新しい時代に採択設定されました。

1971年にライオン誌日本語版事務所から発行され、今は絶版となった「ライオンズ文庫」ライオンズの原点に記載されています。

「ウィ・サーブ」は第37回世界大会において国際協会「モットー・コンテスト」を募集し (ライオニズムを如何に物語り、各国に翻訳可能な5文字以内が募集条件) 約6千通の中から採択された。主語が「私」でなく「われわれ」であることがライオンズクラブの特徴である。また、国際協会が発行している「ライオン誌」1954年9月号の (国際協会の承認を受けて日本語版ライオン誌が1958年7・8月号が創刊された) 「ライオニズム・オン・ザ・マーチ」欄に「コンテストによせられた6000千通の応募の中から「We Serve」選ばれた。同じモットーが11人ものライオンから寄せられたことも、ライオニズムの意識を如実物語る。11点の内最も早く1953年2月13日に到着したカナダ・オンタリオ州フォントヒルのライオン D・A スチーブンソンがこのコンテストの入賞者となった。そして同じモットーを応募した10人の氏名が書かれている。

更に、その前のバック・ナンバーには「当初は国際協会本部の所存するシカゴで開かれる1953年7月の第36回世界大会までとしてコンテストを発表したが、公募が800点ばかりだったので期限を1年延長してニューヨーク世界大会までとした」と記載されている。

参考までに、フィンランド語「メ・パルバレンメ」フランス語「ヌ・セルボン」ドイツ語「ビア・ディーネン」イタリア語「ノイ・セルビアーモ」スウェーデン後「ビ・シエナ」スペイン語「ノソトロス・トロス・サルビオス」ポルトガル語「ノス・セビノス」韓国語「ウリナン・ボンサハンダ」中国語「ウオ・メン・フウ・ウ」と言うそうです。